

西欧農業 訪ねる記

英国農業者連合を訪ねる経済博士であるメアリー・アクランド・フッド氏(女性)の説明を受ける。



ロンドン郊外のベリースフィールド農園を訪問し、酪農の説明を聞く。380haを経営

イギリスの農業 農業人口はわずか3%

アドバイスしたり、指導したりしている。一方農家人口はわずか3%で、政治的にも弱いところから、エネルギッシュに運動したり、農業を国民に知らせるための仕事も、本部職員が担当している。

農業後継者について心配はなく、離農する人があっても、農業を希望する人が多くいるとのことである。

言いたいいろいろ まぎらわしい言葉 言い換えて念を押す

レストランで食事をし たとき、給仕の人にたばこを持ってきてくれるよ う頼んだら、「たばこは 厳禁です」と言われてび つくりしたことがありま す。「現金を今すぐちょ うだいします」の意味だったので すね。

定例行政相談

3月23日(月) 役場第一委員会室で、午後1時から3時まで、定例行政相談会が開かれます。

補聴器の修理と 身障者相談会

●とき 3月21日(金) 午前10時～午後3時 ●ところ 中央公民館2階家庭室

お年玉年賀

榊岡熊一さん(木場下)に 幸運の一矢



お年玉付年賀はがきの一等に、榊岡熊一さん(木場下)が当選し、二月十五日、大野町郵便局へ引き替えに行かれ、局長から「折りた

お年玉年賀

明治三十四年、新潟県下町村の大合併が行われ、八一六町村が一帯に四五六町村となり、本町(当時村)・黒原村・板井村・黒島村・黒崎村・金巻村の五か村が合併し、「黒崎村」の誕生をみたもので、そのころは県内でも屈指の大村として、スタートが切られ、数多くの実せんを経て、今日なお大町(大きな町の意)の名を継ぎ、ぎやいものにしていきます。

合村追憶座談会

期日 昭和六年十一月二十九日 会場 黒崎村役場 出席者 永井元市(収入役) 宗村卯市(書記) 青藤一男(村長)

ボーイスカウトにはいろいろ!

そなえよつねに...これがボーイスカウトの標語です。奉仕の精神を身につけ、いざというときに役立つ用意をするのがスカウト教育です。



カブの集合金



スカウトの敬礼

カブスカウト...小学2年～5年生 ポーイスカウト...小学6年～中学3年生 シニアスカウト...15才～18才 ローバースカウト...18才以上

鷺尾精治(希望者) 小泉達雄(黒島校長) 永井政吉(元村長) 永井熊蔵(同) 座長 青藤一男(村長) 速記 丸山仙吉 座長 座長席をけがします。あらかじめ大綱を定めて進行したいと思ひます。

答なし。話題は追々、見出すこととして、話一からお話を願います。村名の由来については、命名した人と親子の間にある鷺尾氏の欠落は遺憾に思ひますが、幸に村の生字引と称せられる百田氏が出席でありました。百田氏から詳細をお話願います。

村名については、そのころ町部では通称「大野町」として、県内はもろろん、県外まで商取引を七ていたものですか、大野を村名にしたいというのが一般の世論でありました。私は当時助役であつたことから川口村長と共に、五か村の協議の席上において、この世論を実現するため大いに努めました。が、遺憾ながら私共の主張は通りませんでした。というのには、黒崎村や板井は自村の名にしたいという欲でもなく、また新しい村名を付けたら、その結果どうしても合併しななければならぬことになったのです。そして翌十一月二日から、実施になり五か村が協議して合併したのです。当時の村長は、木場村山階学兵